インパクト志向金融宣言
第4回ワーキングレベル会合

2022年11月1日 09:30～12:00
オンライン開催

SIIF Social Innovation and Investment Foundation Capital for Social Innovation

JPN | GSG Driving real impact

本日のアジェンダ

1.	新規参加機関の紹介	09:30〜09:45
2.	分科会活動紹介	09:45〜10:00
3.	プログレスレポート作成報告	10:00〜10:05
4.	GIINインベスターフォーラム出張報告	10:05〜10:15
5.	休憩	10:15〜10:20
6.	ディスカッション 「インパクト志向金融宣言のこれまで、これからについて」	10:20〜11:50
7.	今後の予定・事務局連絡	11:50〜12:00

1. 新規参加機関・参加予定機関のご紹介

署名日	機関名	本日ご参加者 (順不同)
9月1日付	株式会社taliki	中村様
10月1日付	日本PMIパートナーズ株式会社	中島様
	JPインベストメント株式会社	松井様、飯田様、諸岡様
	株式会社ZUU	—
	グロービス・キャピタル・パートナーズ株式会社	—
11月1日付	山口キャピタル株式会社	藤本様、冷水様
	慶應イノベーション・イニシアティブ	宜保様、野村様、鳥居様、大竹様
	農林中央金庫	鈴木様、野田様、増岡様、安藤様
	明治安田生命保険相互会社	細川様、青木様

2. 分科会からの報告

定義・算入基準分科会

インパクトファイナンスの投融資実績を適切に把握・発信するため、共通基準を策定

インパクト志向金融宣言において、署名機関のインパクトファイナンスの投融資実績を適切に把握し発信するためには、共通の算入基準が必要であるため、当該基準策定のために本分科会が設立されました。

本分科会では、幅広くインパクト志向のファイナンスを算入対象として捉えつつ、インパクト創出にかかる金融機関の意図・戦略・インパクト測定・マネジメント・追加性などの要素の有無に関して様々な差異・グラデーションがあることから、これを便宜的に分類するために基準を策定しました。「インパクト測定・マネジメント」の実践レベルは各参加金融機関や個別投融資プロダクツごとに異なるため、署名機関がこの基準に従って投資残高の分類を行い、プログレスレポートで投融資残高等の数値を公開します。

この基準では、インパクトファイナンスの前提となる意図や戦略があることを必須条件としたうえで、「測定」や「マネジメント」の実践レベルに応じて 3 段階に分類することとしました。なお、インパクトファイナンスの定義は、GIIN による既存の定義である「経済的リターンと並行してポジティブで測定可能な社会的・環境的インパクトを同時に生み出すことを意図する投資」に拠っており、インパクトファイナンスの定義そのものは変更していません。定義や基準は時代に応じて変更されていくものであり、今後も、新たな議論やアップデートが必要となった際には、本分科会で議論を行っていきます。

2. 分科会からの報告

インパクト測定・マネジメント（IMM）分科会

IMM のあるべき姿について、共通項と個別性の双方に目配りしながら整理する

インパクト志向を持った金融機関や企業は、IMM（インパクト測定・マネジメント）の理解、試験的運用から本格実施への一連の動きによって、IMM の実践を組織内部に定着させていくことが肝要です。インパクト志向金融宣言において、参加希望者・機関がもっとも多かったのが本分科会でした。グローバルレベルでも動きが速い IMMの先進の知見や事例を学び、自社に取り入れていこうとする意図が見て取れます。

こうした背景をもとに、IMM 分科会は、本宣言署名機関における IMM のあるべき姿について、基本的共通項を中心に置きつつ、アセットクラス、事業規模、個別の案件や投融資先企業の規模等による個別性に目配りしながら整理していくことを当面の目的としています。このため、IMM における海外の先進事例や署名機関の個別具体的実践と課題を共有し、ピアラーニング方式で分科会参加者・機関の共通理解を作り上げていく形で議論を開始しています。具体的には、IMM 全体像（類型、手法など）の把握、IMM 取り組みのメリットの整理、インパクト開示・報告方法、インパクトウォッシュの防止、IMM 実践を通じた金融機関自身のインパクト経営の促進、国内・海外の最新動向やベストプラクティスの共有、IMM 普及のための方策等を議論し、他分科会との連携を図っていきます。

2. 分科会からの報告

ソーシャル指標分科会

地域社会の課題解決と企業の持続可能性向上に寄与する視座・指標を検討する

金融機関の役割は、社会の持続可能性を高めるとともに、地域社会の主たる役割を担う企業の持続可能性を高めることです。Social 要因には、社会の発展と企業の持続可能性向上が密接に結びついています。

本分科会は、これまで地域社会の発展とともに企業が果たしてきた役割に加え、パーパス経営など企業の存在意義や目的を明らかにすることで、社会課題解決と企業の持続可能性を高める動きを後押しします。そのために、何が行動変容（セオリーオブチェンジ）につながるのかを考え、地域社会の希望を創出し、これらに関わるすべての人が「自分も社会課題の解決に主体的に関われるんだ」という手触り、手ごたえを感じられるような視座・指標を検討します。

当初の活動では、SDG インパクト等の世界的潮流、国内金融機関の事例などの情報を共有し、金融の業態や特性に応じた、各企業を見る視点、エンゲージメント手法を検討します。また、あらゆる企業が Social に起因する非財務価値の重要性を認識し、経営に浸透させるための仕組みや開示方法等も検討していきます。

将来的には、S 指標を中心に地域社会へのインパクトを生み出し、企業の行動変容を金融機関から働きかけていくための指標を検討します。ただし、同じ指標が良いということではなく、それぞれが抱えるテーマを出し合い、コアな共通因子を見付け、改善するための行動変容と社会へのインパクト創出を目指します。

2. 分科会からの報告

アセットオーナー・アセットマネジメント分科会

アセットオーナーにインパクトファイナンスに関心を寄せてもらうための取り組み

インパクトファイナンス推進のためには、リスクをとって投資をする投資家の意識や関心が極めて重要です。銀行による融資と異なり、上場株式、債券、オルタナティブでは、アセットオーナーの投資意欲が高まらなければ、資産運用会社の取り組みは空回りしてしまいます。我が国でも、一部の生命保険会社は既にインパクトファイナンスに取り組んでいましたが、業界での取り組みが本格化したのはここ数年であり、多くの保険会社の関心はまだこれからです。我が国の年金基金においては、公的年金・企業年金を問わず、インパクトへの関心は発展途上です。

本分科会は、アセットオーナーへの啓発を通じてインパクトファイナンスへの関心を引き出し、適切に投資してもらうために、何が必要かを考えます。資産の大きなユニバーサルオーナーには、インパクトファイナンスに強い関心を持つ論理的な理由があります。海外では、年金基金自身による取り組みとともに、GIIN・GSG による働きかけが行われてきました。また、インパクトファイナンスを組み入れたポートフォリオの構築手法の提供などについては、PRI が行ってきた ESG 投資の組み入れの支援の事例なども参考に検討していきます。さらに、インパクトの達成と適切なリターンの確保という 2 つの目的に合致する統合的な投融資判断手法についての取り組みも、アセットオーナーへの働きかけの観点から重要であると考えています。

2. 分科会からの報告

地域金融分科会

地域金融機関におけるインパクトファイナンスのあるべき姿を導き出す

地域課題の解決や地域経済の活性化のために、地域金融機関は、地域社会の核として非常に重要な役割を担っています。地域金融機関にもインパクトファイナンスが浸透し始めたものの、量的な拡大と質的な向上には課題があると認識しています。

本分科会は、①地域インパクトの底上げのための情報発信、②インパクトを基点とした地域金融機関の融資業務とファンドの投資業務の接合のあり方、③地域インパクトファイナンスの共通指標の検討、を主なテーマに掲げ、取組み事例や疑問、課題を共有し、議論しながら「地域金融におけるインパクトファイナンスの在り方」を導き出すことを目指します。これまでの活動では、ポジティブ・インパクト・ファイナンスの融資、ソーシャル企業認証制度、ファンドを通じた地域企業へのインパクト投資、自治体によるインパクトレポート策定、地方創生 SDGs 金融調査・研究会発表といった事例紹介や有識者による情報共有を行いました。

様々なアセットクラスのメンバーが集まり、お互いの事例を紹介することは非常に有意義である一方、投資手法や対象企業も異なることなどから共通項を見出すことの難しさにも直面しています。しかし、地域社会にインパクトを広めたい思いは共通しており、今後も様々な議論を重ねることで、本分科会から地域におけるインパクト投資のあり方を発信していきたいと思います。

2. 分科会からの報告

ベンチャーキャピタル分科会

VC 業界において、インパクト志向の追求と IMM を実践しやすい環境整備を目指す

インパクト投資への期待値が高まる一方、まだ VC におけるインパクト測定や管理、投資家へのレポーティング等の手法は画一されていません。そのハードルの高さから、特に日本においてはインパクト投資を行うVCは数少ない状況です。また、インパクト投資におけるGood Practice 例やインパクト・ウォッシュ等に関する業界の共通認識がまだ無いことも課題として挙げられます。

本分科会では、VC が扱う資金の流れを可能な限りインパクト志向へと変革させ、環境・社会課題を自律的に解決しうる持続的な資金循環を生み出していく為に、VC 業界においてインパクト志向の追求と IMM を実践しやすい環境の整備を図っていくことを目的として、(1)メンバーの事例に基づく Peer-Learning を中心に、投資ステージ・業界毎の Good/Bad Practice を学習し、VC における実務レベルの知識の底上げを図る、(2) VC業界ならびに投資ステージ・業界毎のインパクト投資の共通認識・Good practice例の整備に向けた協議を行う、という活動を行う方針です。これらの活動を通して、VC 業界ならびに投資ステージ・業界毎のインパクト投資の共通認識・Good practice 例の整備（インパクト・ウォッシュといわれない共通認識含む）を図っていきたいと考えています。

2. 分科会からの報告

海外連携分科会

先行する欧米事例を理解し、海外ネットワークを拡大し、日本からも発信する

日本におけるインパクト投資は黎明期を迎え、多くの金融機関がインパクト投資のケイパビリティビルディングに力を入れ始めています。その中で、インパクト投資の最先端の実践知は欧米のインパクト投資家の中で蓄積されていることが多いのが現状です。そこで、まずは先行する欧米事例を理解し、常に動いている最先端の状況にキャッチアップする必要があるという課題意識を分科会メンバーで共有しています。

本分科会は、「海外で蓄積されているインパクト投資関連情報の理解」、「海外ネットワークの拡大」、「日本のインパクト投資の海外発信」の 3 つを目的に活動を行います。目的達成のため、海外のインパクト投資事例の紹介や海外プレイヤーを招いた勉強会を定期的に行うと共に、メンバーは国際的なインパクト投資のカンファレンスに積極的に参加し、日本のインパクト投資の現状や先進国の社会課題に対するインパクト投信のケースを発信していきます。活動を通じて、メンバーが国内外の最先端のインパクト投資実践事例にキャッチアップし、グローバルでインパクト投資をリードしているプレイヤーや団体と繋がり、グローバルでのインパクト投資のガイドライン作成やコンセンサスビルディングに参加出来るような状態を目指したいと考えています。

3. プログレスレポート作成報告

別資料参照

4. GIINインベスターフォーラム出張報告

October 13, 2022 12:05 - 12:45

SPECIAL EVENTS

Impact-Driven Financing Initiative and the Recent Evolution of Impact Investing in Japan

Room: Yangtze 2 | First Floor

Over the last few years, the Japanese impact investing ecosystem has been rapidly growing and catching up to the development of the global impact investing landscape. The Japanese Impact-driven Financing Initiative plays a key role in the expansion of the ecosystem by sharing the experiences and know-hows of impact investing and building a consensus among more than 30 financial institutions in Japan. This discussion will bring together the key players who have been contributing to the expansion of the Impact investing ecosystem in Japan, share the latest impact investing landscape in Japan, and discuss the possible contributions to the global impact investing market in the future.

SPEAKERS

Masato Nakamura, Founding Partner, GLIN Impact Capital »

Masaaki Amma, Executive Advisor, Japan Social Innovation & Investment Foundation (SIIF) »

Nanako Kudo, Member of Executive Committee,, Japan Social Innovation & Investment Foundation (SIIF) »

Hiroyuki Nomura, Senior General Manager, Japan Post Insurance »

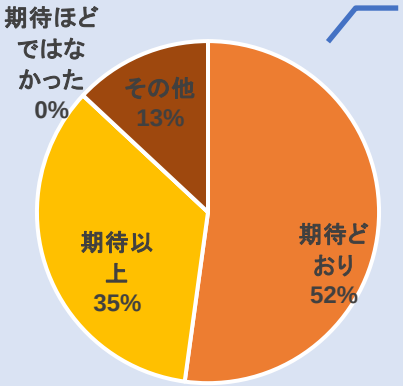
休憩

10:15〜10:20

6. ディスカッション
「インパクト志向金融宣言のこれまで、これからについて」

アンケート結果

Q1：インパクト志向金融宣言に参加した感想



87%が期待どおり/期待以上とご回答

(回答数:28)

- ✓ インパクト投資の理解が進んだ、インパクト投資の考え方を「志向」するための社内の知識や意識醸成に役立った
- ✓ インパクトという動きが加速化した
- ✓ 分科会での先行事例紹介や、様々な方とアクセスできること
- ✓ 悩みなどを含めて情報交換ができるから
- ✓ 前向きな参加者による真摯な議論が行われており、市場の発展に貢献し得ること
- ✓ 内容が実際の投資に基づいたものであり、かつ先進的で、非常に勉強になる
- ✓ ネットワークの構築・情報共有
- ✓ 分科会での交流を通じて京都信用金庫が取り組むソーシャル認証制度への参加が決まった

Q2：一番よかった活動

分科会等	✓ 分科会活動、勉強会（7名）
他機関とのつながり、業界ネットワーク構築	✓ 他機関との意見交換、他社事例を知る事ができた ✓ 業界ネットワーク構築(投資家含む金融機関へのアクセス)、関係者とのネットワーク拡充 ✓ 中小企業金融でのインパクト創出に興味のある金融機関が多いことを知れた ✓ インパクトファイナンスに取り組まれる人達と繋がることができたこと ✓ 民間主導でさまざまな取り組みが動き出したこと ✓ 金融機関やVC等側の事業における社会性の理解や認知が広がったこと
自社取組への反映	✓ 分科会での交流や勉強会参加を通じて自社の取り組みを具体的に考えることができたこと ✓ 社内でのESG活動の認知度が上がってきた ✓ 定期的に会合機会があることで、社内でもインパクトにかかる検討を共有する契機にもなること ✓ 「インパクト指標を通じた対話」を進める議論を展開するきっかけとなった

6. ディスカッション
「インパクト志向金融宣言のこれまで、これからについて」

アンケート結果

Q3：インパクト志向金融宣言でやってほしいこと、やりたいこと

- ✓ それぞれの金融機関が社会に求められる役割を果たしていく中で、金融機関同士の連携によって、果たす役割をより大きい、高度なものにしたい
- ✓ 参加者の自由な意見交換を通じた、問題意識の共有や、イニシアティブの組成
- ✓ ネットワーキングイベントの開催、海外の同様のコンソーシアム(SPAIN NAB)のような機関との連携・交流
- ✓ インパクト投資の目線合わせと投資環境の整備
- ✓ 様々な立場の方々の悩みや考え方が共有される場の設置
- ✓ オフラインイベント
- ✓ 他分科会との交流、投資家同士の交流
- ✓ 海外の取組みと、日本の取組みのブリッジ

- ✓ インパクト志向を地域の中小企業等にも浸透させること
- ✓ PEやVC投資のESG/インパクト投資をより進展させていきたい
- ✓ まだインパクト投資を行えていない企業等へのファンドレイズのアドバイス・支援
- ✓ インパクト投資とは何か、どう取り組むことができるか(導入のヒント)を幅広く伝えること
- ✓ ここでの議論や提言が政策にも反映されるような影響力の向上

- ✓ 先行事例を交えた、具体的な事例やフレームワークの紹介
- ✓ 事例の紹介と、議題を挙げた意見交換
- ✓ 「インパクト」の具体的な事例　上場株など広がりがある分野でのベストプラクティスの紹介
- ✓ ESGのSやGの定量的に計測が難しい分野の計測方法とそれをKPIとしているインパクト投資についての勉強会
- ✓ 人材育成

- ✓ 自走化

インパクト志向金融宣言の「戦略」

1. **知る・つながる：** 業界の知の向上・海外との連携
2. **広める・知らせる：** 量的な拡大
3. **高める・深める：** 質的な向上
4. **つなげる：** インベストメントチェーン全体の巻き込み

6. ディスカッション
「インパクト志向金融宣言のこれまで、これからについて」

アンケート結果

Q4：今後どのようなプラットフォームにしていきたいか

✓成功事例も失敗事例も共有できる、知のプラットフォーム化の更なる推進
✓各機関が互いに学び合うことにより、進化し続けるプラットフォームとしたい
✓Interactiveなコミュニティー
✓これからも民間主導で進めていきたい
✓より多くの投資家へ認知され、多くの金融機関が参加するプラットフォームになることを期待します
✓インパクト投資を行っているところとこれから行おうとしているところの個別の連携の機会が生まれるようなプラットフォーム
✓インパクト志向の企業や市民が増えていくような施策や取組みが増えていく場になるとよいと思います
✓署名機関、事務局との双方向だけでない、予想外の接触、発見を生むプラットフォーム
✓日本におけるインパクト投資を核としたサステナ投資の推進を実務面も含めてサポートするプラットフォーム
✓実務側だけでなく、大学等の研究機関も巻き込んだプラットフォームにしてほしいです
✓インパクトファイナンスで何か照会したい時には、ここに照会すれば解決できる、または一定の解決策を引き出すことができる場所にしていきたい
✓経産省中心に「トランジションファイナンス」の本格議論が始まり 大手上場企業でのトランジションの成果や温室効果ガス削減効果を「インパクト指標」として示す動きが加速することが見込まれる。このような動きを捉え、どのようなインパクトの見せ方が適切かなどを議論する場とすることも一つのアイデアであろう。
✓上場資産などインパクト投資の拡大
✓金融業態ごとのインパクトファイナンスの最先端にアクセスできる場所
✓日本におけるインパクト投資推進のためのプラットフォーム
✓（特にVC業界において）インパクトの取り組みを当たり前のように取り組めるようにしていきたい
✓夫々の立場の方々が有機的にコミュニケーションを取る事で、インパクト投資が推進するようなプラットフォームにしていきたい
✓金融機関だけではなく、政府・自治体・国際機関・アカデミア、そして資金調達側にも署名対象を拡大し、多くの視点からより幅広く、深い議論を行うことで、より大きな活動成果を生み出し、日本だけでなく、グローバルにインパクト投融資の更なる浸透、そしてその発展を促すことができるプラットフォーム
✓国内をベースにしつつも、将来的にはアジアないしはグローバルにも署名者を増やしていき、日本発のインパクト経営プラットフォームにしていきたい

参考：インパクト志向金融宣言の戦略・Theory of Change（TOC）

・個別投資におけるIMMの実践を積み上げていくことにより金融機関の経営をインパクト志向へと変革させていくことを基本戦略に掲げる一方，インパクト志向金融の経営を推進することを通じ，金融機関の業務全体にIMMを伴うインパクト志向の金融を拡大させていくという，トップダウンとボトムアップの双方からのアプローチをとる。
・この戦略を複数の金融機関に横断的に推進していくことで、金融機関が扱う資金の流れを可能な限りインパクト志向へと変革させていくことを目指す。

Vision
つくりたい未来

金融機関が扱う資金の流れを可能な限りインパクト志向へと変革させ、環境・社会課題を自律的に解決しうる持続的な資金循環を生みだしていく

Mission
私たちの使命

金融機関横断で、インパクト志向の追求とIMMの実践に向けた取り組みを協同して推進していく

Strategy
戦略

リターンとインパクトの同時実現を伴うインパクトファイナンスの個別事例を積み上げていくことを通じ、金融機関の業務全般におけるインパクト志向金融経営の実現、その拡大を目指す

1 **知る・つながる**：
業界の知の向上・
海外との連携

2 **広める・知らせる**：
量的な拡大

3 **高める・深める**：
質的な向上

4 **つなげる**：
インベストメントチェーン全体の巻き込み

主な
活動内容

- 国内外のベストプラクティスや最新状況を知る
- 海外の先進的なプレイヤーとつながる

- インパクト志向金融並びにインパクトファイナンスに関する周知活動
- 署名機関の拡大

（アセットクラス別に）
- 質の高いIMMの実践
- ベストプラクティス創出
- インパクトパスウェイの可視化

- アセットオーナーとの連携推進、エンゲージメント
- 個人投資家を動かす仕掛けづくり
- ディールフロー拡大（投資先エンゲージメント）

※インパクト志向金融経営とは、金融機関がその経営においてインパクト志向を取り入れていくことを指す
　インパクトファイナンスとは、インパクト志向の金融手法全般を指し、投資、融資、その他の金融商品を含む

6. ディスカッション
「インパクト志向金融宣言のこれまで、これからについて」

- 運営委員からのコメント　10:25-10:35 (10分)
- ブレークアウトセッション　10:35-11:15 (40分)

テーマ
1. 日本の金融業界として、インパクト投資に取り組むにあたって課題を感じていることは何か？
2. インパクト志向金融宣言で、中期的（3～5年後）に何が達成できていると良いか?

- 各グループからの共有<2～3分>　11:15-11:40 (25分)
- 質疑応答　11:40-11:50 (10分)

7. 今後の予定・事務局連絡

- プログレスレポート発表　2022年12月下旬
- プログレスレポート記者発表　2023年1月XX
- 代表者総会 x 第5回ワーキングレベル会合　2023年1月26日